

活動状況等報告② 農地環境



斐伊川水系 水鳥プロジェクト

斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

1. 農地環境ワーキング報告

(1) ワーキング開催概要

2025年3月12日(木)に、全体構想短期目標達成に向けた農地環境ワーキングの取組に関する報告と、人と自然にやさしい水田農業に向けた取組および、農地管理の担い手不足解消に向けた検討について、意見交換を行った。

今回は「地域創生SDGsプロジェクト」として、「トキ放鳥支援プログラム」を活動展開中の地元企業3者の若手社員の方にも参加いただいた。

日 時	2025年3月12日（木）14:00～16:00		
場 所	国土交通省 出雲河川事務所 大会議室（オンライン併用）		
参加 メンバー	コウノトリの会春殖 事務局長 大東大月谷集落協定	岩田 守弘	
	コウノトリの会春殖	鳥谷 秀和	
	農事組合法人 野尻の郷	野淵 佳治	
	つちのと舎	三瓶 浩己	
	株式会社出雲村田製作所	吉川 ひかり	
	株式会社島根富士通	持田 新	
	島根島津株式会社	竹下 均	
その他	協議会参加自治体の関係部署		
	国土交通省 出雲河川事務所		
	(公財)日本生態系協会		
議題	①斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想と農地環境ワーキング ②人と自然にやさしい斐伊川水系の水田農業に向けた取組 ③農地管理の担い手不足解消に向けた検討		

生態系ネットワーク形成

地域ブランド確立

地方創生

(2) 主な議事内容

◆人と自然にやさしい斐伊川水系の水田農業に向けた取組について

- ・大型水鳥類の採食環境の維持・改善に関する情報提供を行った。

◆農地管理の担い手不足解消に向けた検討

- ・関連団体による「しまっち」の活用状況等を報告した他、他地域における草刈り活動に関連した取組事例等を紹介した。
- ・地元企業の(株)出雲村田製作所・島根島津(株)・(株)島根富士通の3社により、トキ放鳥支援プログラムの取組について紹介された。
- ・つちのと舎（雲南市）より、自然農法の田んぼづくりと、地域の人との協働の取組について紹介された。

◇ワーキングメンバーからの意見等

（しまっちについて）

- ・草刈りだけのプログラムでは人が集まりにくいと、地域文化と結びつけるなどのアプローチを検討している。
- ・若年層の共感を得られるような情報発信の強化と、まちづくりと連携した活動の必要性を感じる。

（担い手不足について）

- ・担い手不足の課題については、知識のある人を求める場合と、知識を必要としない場合があるので、切り分けて整理する必要がある。
- ・企業が生態系ネットワークの取組に参画し、地域の経済活性化に貢献するというケースが他地域でも始まりつつある。3社の取組を大切に、斐伊川流域で良いモデルが作れるとよいのではないかと。

（その他）

- ・農地管理作業は大変だが、終わった後にコウノトリが姿を見せてくれることがある。それがやりがいになっていると思う。
- ・秋耕の扱いを含めて、水田農業の労働生産性の高い平地でトキやコウノトリとの共生を実現するためにどうすべきかが次の課題である。

トキ・コウノトリの採食環境としてのビオトープ整備

(は2024年度整備箇所)



◇協力・連携団体による2024年度のビオトープ整備事例

むすびビオトープ（出雲市斐川町直江）

設置者：(株)出雲村田製作所・島根島津(株)・(株)島根富士通
・むすび営農組合

- ・(株)出雲村田製作所・島根島津(株)・(株)島根富士通の3社によるトキ放鳥支援プログラム※の一環として、ビオトープづくりを計画
- ・対象圃場は、3社工場近隣の「むすび営農組合」が提供
- ・圃場を盛土による畦畔で2分し、水はけの悪い区画をビオトープとして全体を湛水
- ・ビオトープ内の常時湛水域を確保するため、畔の内側を一部掘削
- ・整備費用は、3社のプログラム予算を活用
- ・ビオトープ整備前、整備後に生き物調査を実施（今後も継続的にモニタリング調査を実施の予定）
- ・3社では同ビオトープを社内啓発にも活用する予定



整備前（生き物調査 2024.11撮影）



整備後（2025.6撮影）

※地元企業3社によるトキ放鳥支援プログラム

3社は2022年6月に「地域創生SDGsプロジェクト」を始動。3社共同プロジェクトとして、若手社員を中心に活動。2023年6月に、同プロジェクトの環境チームが、出雲市トキの放鳥プロジェクトへの協力を発表し、現在「トキ放鳥支援プログラム」を展開中。

宇屋谷 ビオトープ（出雲市斐川町神庭）

設置者：農事組合法人神庭谷農産・NPO法人いずも朱鷺21
（サントリー世界愛鳥基金（(公財)日本鳥類保護連盟申請事業）を活用）

- ・休耕田（1区画12.0a）をビオトープとして整備
- ・田内を掘削し、全体を湛水



看板



整備後（2025.4撮影）

写真提供：(農)神庭谷農産

ひむろの郷 ビオトープ・土水路ビオトープ（出雲市町斐川町神氷）

設置者：農事組合法人ひむろの郷・NPO法人いずも朱鷺21
（サントリー世界愛鳥基金（(公財)日本鳥類保護連盟申請事業）を活用）

- ・休耕田（1区画11.25a）、田内土水路（25m）をビオトープとして整備
- ・休耕田は田内を掘削し、全体を湛水
- ・田内に土水路（江）を掘削し、常時湛水域を整備



休耕田ビオトープ（2025.6撮影）



土水路ビオトープ（2025.6撮影）

◆農地管理の担い手不足解消に向けた検討

◇「しまっち！」（（公財）ふるさと島根定住財団運営の関係人口マッチング交流サイト）の活用

コウノトリの会春殖（雲南市）

- ・2023年6月にサイト登録を完了
- ・2024年度は計3回、2025年度は7月時点で2回のプログラムを実施（延べ10名が参加）
- 「しまっち！」を通じた参加者数は0～4名

＜参加者からのコメント＞

- * こんなに地域や環境に良いことをしているのに、若者に活動が知られておらず、もったいない。もっと発信した方がいい。
- * コウノトリを間近に見られて良かった



＜課題＞

- ・若年層の共感を得られるような情報発信の強化
- ・まちづくりと連携した活動の検討



コウノトリの会春殖は、斐伊川水系水鳥プロジェクトを応援しています

画像出典：しまっち！活動レポート (<https://shi-match.jp/report/kounotori0706/>)

農事組合法人野尻の郷（出雲市）

- ・2024年7月にサイト登録を完了し、コミュニティページを開設
- ・単なる「草刈り作業」ではなく、神社の伝統行事等の継承も含めて地域の活性化につながるプログラムを検討中



画像出典：しまっち！コミュニティページ (<https://shi-match.jp/pc/345/>)

今後の方向性

人と自然にやさしい水田農業に向けた取組

- ・流域治水と大型水鳥類の生息環境づくりに資する水田農業の工夫について広く周知するための検討を行う。
- ・上記取組に賛同する主体の発掘に努める。

担い手不足解消に向けた取組

- ・「しまっち！」登録団体の取組に対するサポートを継続して行う。
- ・地元企業3社や島根大学等、繋がりを得た事業者等との連携に向けた検討を行う。